



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第85回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

明けましておめでとうございます。

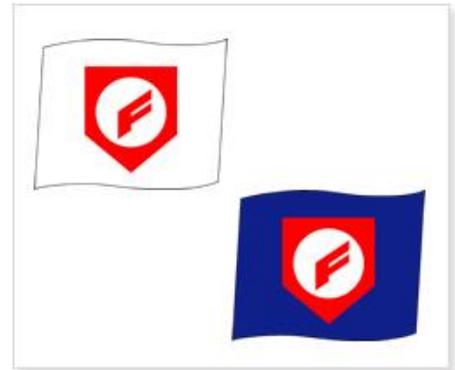
本年も高校野球に関わる指導者、選手、高校野球ファンの皆さんに分り易くマナー・ルールを解説・紹介していきたいと思しますので、本ホームページの積極的な活用を期待しています。

さて、ご承知のとおり本年は、選抜大会は90回、選手権大会は100回と節目の年です。長きに亘り高校野球を支えていただいた諸先輩へ感謝し、改めて高校野球の原点に触れてみましょう。

### マナー編 「連盟旗のFマーク」(第3回も参照)

高校野球連盟旗は、戦後に高校野球が復活した時に制定され、昭和24年(1949年)の第21回選抜大会で掲揚されました。連盟(Federation)の頭文字である“F”をあしらい、この“F”には、「フェアプレイ(Fair play)」「フレンドシップ(Friendship)」「ファイト(Fight)」というマナーの根源とも言える精神を表しています。また、“F”の文字が斜めに描かれているのは、若人の躍動を表していると言われていました。

これら“F”に込められた思いを次代に繋ぐべく、選手諸君にはいかなる相手にも勇氣(Fight)をもって試合に臨み、正々堂々(Fair play)と己の技を発揮し、チームメイトのみならず、多くの球児との友情(Friendship)を築き、澆刺とプレイして欲しいと思います。また、高校球児に直接接する指導者、審判委員は、高校野球は教育の一環であることを強く受け止め、選手諸君の“F”への思いに応えるべく、研鑽してまいりましょう。



## ルール編 「試合の目的」

野球という試合の目的をルールの文言で確認してみましょう。

公認野球規則 1.00 「試合の目的」では、次のように規定されています。(下線は筆者が加筆)

- 1.01 野球は、囲いのある競技場で、監督が指揮する9人のプレーヤーから成る二つのチームの間で、1人ないし数人の審判員の権限のもとに、本規則に従って行われる競技である。
- 1.02 攻撃側は、まずバッターがランナーとなり、ランナーとなれば進塁して得点することに努める。
- 1.03 守備側は、相手のバッターがランナーとなることを防ぎ、ランナーとなった場合は、その進塁を最小限にとどめるように努める。
- 1.04 バッターがランナーとなり正規にすべての塁に触れたときは、そのチームに1点が記録される。
- 1.05 各チームは、相手チームより多くの得点を記録して、勝つことを目的とする。
- 1.06 正式試合が終わったとき、本規則によって記録した得点の多い方が、その試合の勝者となる。

ルール編でこれまで取りあげてきた題目の多くは、下線部「本規則に従って行われる競技」でありながら、規則に抵触するプレイ、あるいは誤ったルールの理解が原因で発生するトラブル事例です。

また、下線部「まずバッターがランナーとなり」は、第80号、第83号、第84号※のマナー編などで「打者は投手を待たせない、投手は打者を待たせない」と繰り返し指導してきた背景であり、試合進行の要となる事項です。

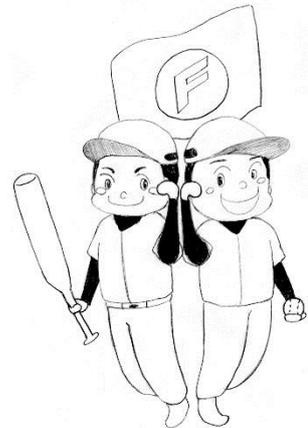
最後の下線部「1.06」は、「タイブレーク制度」の適用拡大が報道発表されました。**次号で2018年度のルール改正事項と合わせて紹介・解説を予定**しています。2018年野球シーズンの開幕も近づいています。ルールへの理解度を更に深め、正しい野球を追求していきましょう。

(参考)

※第80号 マナー編「グラウンド内は常にかげ足で！」

※第83号 マナー編「投手の準備投球中の打者の待つ場所」

※第84号 マナー編「試合のテンポを良くするボール回しとは・・・」



イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科  
松田 麻希 さん(2年)